

会社概要

(2018年6月30日現在)

- **社名** 株式会社C&Gシステムズ (C&G SYSTEMS INC.)
- **設立** 2007年7月2日
- **資本金** 5億円
- **従業員数** 244名(連結)
- **本社所在地** (東京) 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー19F
(北九州) 〒806-0067 福岡県北九州市八幡西区引野一丁目5番15号
- **電話番号** 03-6864-0777 (代表)
- **事業内容** 金型製造用CAD/CAMシステム、生産管理システム等の開発、販売、サポート
- **主な拠点(国内)** 東京支店、北関東支店(2018年9月より大宮支店) 名古屋支店、大阪支店、九州支店
(テクニカルセンター) インドネシアテクニカルセンター
(海外子会社) CGS ASIA CO., LTD. (タイ)
CGS NORTH AMERICA INC. (CANADA) (カナダ)
Tritech International, LLC (アメリカ)
(海外代理店) IGPNET社(韓国)
Global Computer Engineering社(韓国)
Shanghai C.J System Technology社(中国)
Create Well社(台湾)

株主メモ

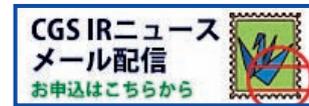
- **事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで
- **定時株主総会** 毎年3月開催
- **基準日** 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- **株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
- **公告方法** 電子公告 (<http://www.cgsys.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- **単元株式数** 100株
- **上場証券取引所** 東京証券取引所 市場第二部

C&Gシステムズ IRサイトのご紹介

当社への理解をより深めていただくため最新IR情報を掲載したIRサイトをご活用下さい。

IRメールニュース配信

IR関連情報を掲載した「CGS IR MAIL NEWS」を配信しております。メールアドレスご登録はCGSのIRサイトから！



個人投資家の皆さまへ

当社の事業内容、強み、業績等、当社の情報をまとめ、分かりやすくご紹介しております。



<http://www.cgsys.co.jp/jp/ir/>



決算説明会動画

株主の皆さまに広く当社の決算概要をご理解いただくため、社長の塩田による決算説明会動画を掲載しております。



会社紹介ムービー

当社で働く社員の様子、ユーザー様のインタビューを交えた、当社の会社紹介ムービーをご覧いただくことができます。



12th Interim Business Report

第12期第2四半期 株主通信
2018年1月1日～2018年6月30日



世界を築く、創造のソリューション。

株式会社C&Gシステムズ

証券コード：6633

株主の皆さまには、いつも変わらぬご支援を賜り誠にありがとうございます。2018年12月期第2四半期の営業概況について、ご報告申し上げます。

2018年12月期第2四半期の業績は？

当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は売上高が18億89百万円、営業利益が62百万円の減収減益となりました。主な理由は、国内においては第1四半期に引き続き、設備投資の工作機械への集中が当社CAD/CAMシステム販売に影響したこと、また昨年同期以降、金型製造事業の受注が低調に推移していることによるものです。

(1) CAD/CAMシステム等事業

設備投資の先行指標となる工作機械受注は過去最高を記録するなど高水準の受注状況が継続していますが、一方で部品不足等により納品時期が長期化しているため、工作機械の納品に併せ導入されるCAD/CAMシステムの選定・購入に関しては、工作機械の納品時期が到来するまで持ち越される傾向にありました。加えて製造業向け政府補助金の採択が6月末であったため購入を先送りにするケースもあったことから、国内製品販売は伸び悩みました。保守売上は高い保守更新率を維持し堅調に推移、海外製品販売はASEAN地域でのローカル市場への展開強化等により前年同四半期並みで推移いたしました。国内製品販売の減収をカバーするには至りませんでした。また先行投資としての開発外注費が増加したことなどが利益面に影響いたしました。

(2) 金型製造事業

米国で展開する金型製造事業においては、既存顧客からのプロジェクト受注および新規顧客開拓を推進し下期以降の売上につなげるための活動を継続しておりますが、昨年同期以降、新車開発の動向変化により主要顧客である日系部品メーカーからの開発案件が減少しており、またそれに伴い原価率も悪化いたしました。

2018年下期の動向は？

2018年上期の業績の状況を鑑み、当社グループの通期連結業績予想を、売上高39億29百万円（修正前：41億58百万円）、営業利益1億82百万円（修正前：3億73百万円）に修正させて

いただきました。ただし下期については後述のように回復の兆しもあり、加えて各事業での重要施策に注力することにより、少しでも収益が拡大するよう、努めてまいりますと考えております。

なお配当予想については当初予想の期末配当10円からの変更はありません。

金型・部品製造向け工程管理システム「AIQ」に期待

本年度下期以降は、工作機械の納品が進む中で国内でのCAD/CAMシステムへの需要も回復するものと見ており、また政府補助金の採択結果待ちであった顧客からの売上も増加するものと見込んでおります。加えて、「現場主導のIT活用」を新コンセプトとして全面リニューアルに取り組んだ金型・部品製造向け工程管理システム「AIQ」については、製造業におけるIoT活用が注目される中、金型・部品製造の生産管理をスマート化し、生産効率の向上をサポートする当社独自のソリューションとして顧客から大きな反響をいただいております。今後の業績への貢献に大きな期待を寄せております。

また金型製造事業についても、当第2四半期に受注した新規プロジェクトにより収益の一部回復を見込んでおり、また従来からの得意先である日系部品メーカーだけでなく、新規部品メーカーに対しても積極的な受注活動を展開することで収益拡大に努める所存です。

今後も世界のモノづくり分野において、「グローバル・ニッチ・トップ」を目指し、顧客満足度向上、ひいては企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社へのご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年9月吉日

代表取締役社長
塩田 聖一



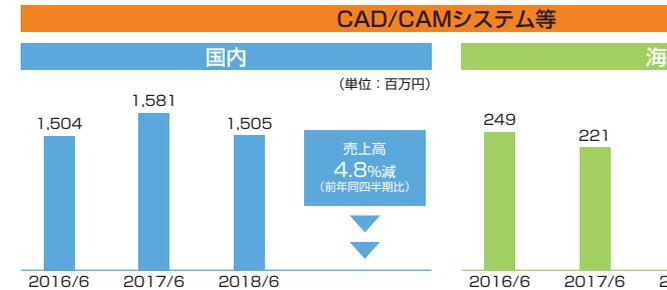
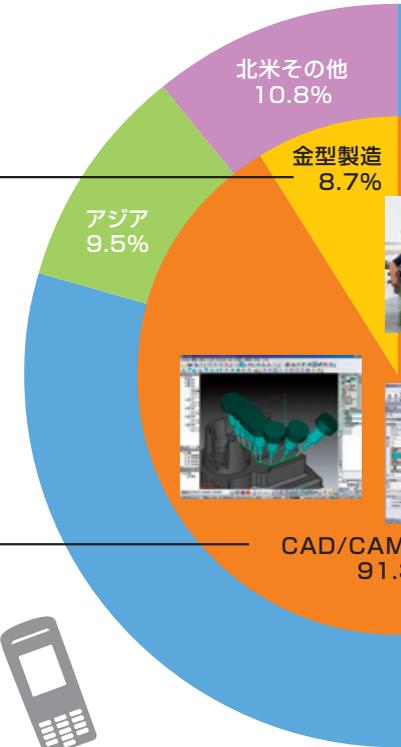
金型製造事業

北米を拠点に、自動車部品等の元となる金型製造の請負、および関連設備の販売・輸出入を行います。



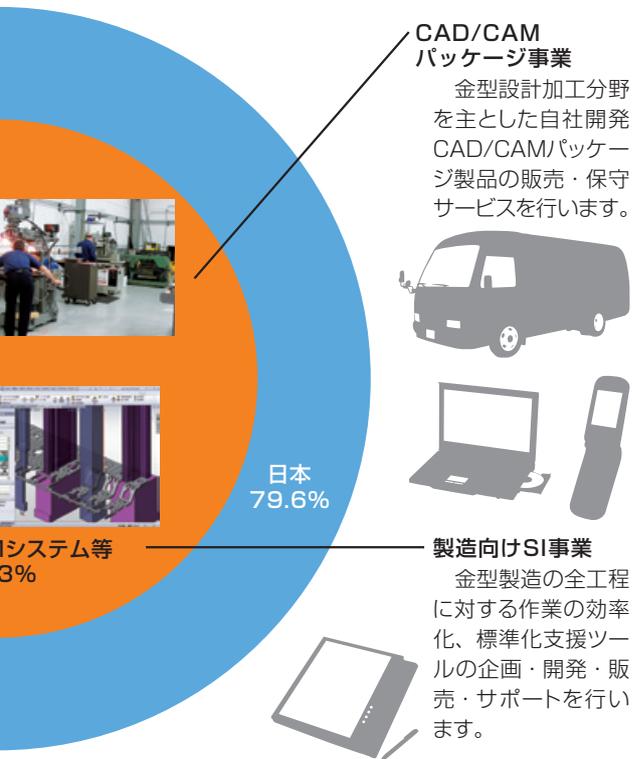
OEM事業

金型関連市場、隣接市場等に対し、既存のコア技術を戦略的に提供することで新規ビジネスの創出を図ります。



国内では設備投資の工作機械への集中および製造業向け政府補助金の採択時期等が影響しCAD/CAMシステム販売の購入が先送りされる傾向にあり、製品販売が低調に推移いたしました。保守売上は高い保守更新率を維持し堅調に推移いたしました。製品販売による減収をカバーするに至りませんでした。

タイ、ベトナム等での韓国での作業の自動化を「CAM-TOOL ES」の販売が堅調に推移いたしました。保守売上は高い保守更新率を維持し堅調に推移いたしました。製品販売による減収をカバーするに至りませんでした。



「CAM-TOOL」最新バージョン「V14.1」リリース

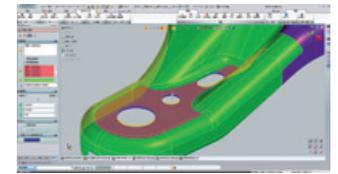
2018年4月、金型用3次元CAMシステム「CAM-TOOL」の新版「V14.1」をリリースしました。本バージョンではユーザーインターフェイスを刷新、リボンメニューを採用し、Windowsアプリケーションにおける操作の親和性を高めました。また、サーフェスプラスに「フィル曲面」を新設し、円弧・曲線、曲面輪郭などで囲まれた領域に対して、より連続性に優れた曲面を容易に生成することが可能となりました。



CAM-TOOLリボンメニュー

「EXCESS-HYBRID II」最新バージョン「V3.1」リリース

2018年2月、金型向け2次元・3次元融合型のCAD/CAMシステム「EXCESS-HYBRID II」の新版「V3.1」をリリースしました。本バージョンよりユニコードに対応し図面注記の互換性が保証されるようになりました。また、プラスチック射出成形金型の外周部を構成する部品群である「モールドベース」作成機能において、双葉電子工業社製に加え、新たに日本金型材社製モールドベースを追加しました。



EXCESS-HYBRID II インターフェイス

金型・部品製造向け工程管理システム「AIQ」を全面リニューアル

～製造現場の「見える化」を推進するIoTソリューション～

2004年に販売を開始したCAD/CAMシステム連動型の金型・部品製造向け工程管理システム「AIQ」を全面リニューアル、最新バージョン「V11.1」として7月より販売を開始いたしました。

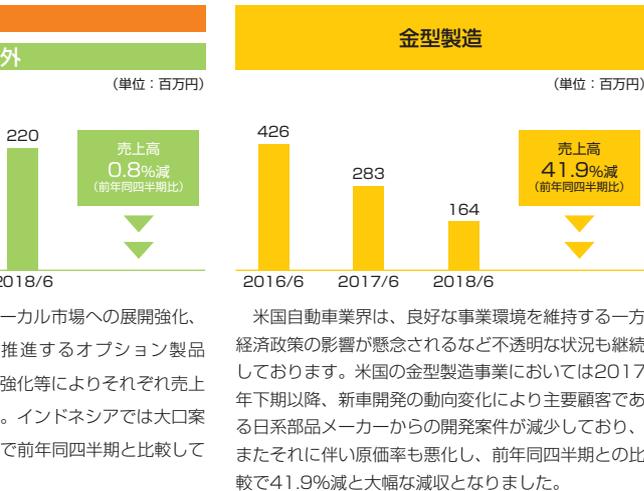
「AIQ」は金型・部品製造業に特化した当社独自のIoTソリューションで、自社の受発注情報と工程情報をデータベースで一元管理し、日程・進捗・実績・負荷・原価をリアルタイムに連携させることで、「見える化」の実現をもたらします。

多くの製造現場では、特急品などの個別オーダーに追われる中で、ホワイトボードや、Microsoft® Excelを駆使し、経験と勘をベースとした管理が行われてきました。「AIQ」の導入により、従来の「経験」「勘」に頼るのではなく、CAD/CAMと連携して精度の高い工数予測を算出することでより現実的な計画を立案することが可能となります。この他、実績管理および実績集計等、ユーザの加工環境に合わせた計画管理を可能としており、蓄積したデータを分析しやすい情報として提供することで、適切なマネジメントや、適確な経営判断にも寄与するソリューションとなっております。

CGSでは「AIQ」による製造現場の「見える化」を推進することで、IoT活用による製造工程のさらなる生産性向上を支援してまいります。



AIQイメージ



連結貸借対照表の概要

(単位：千円)

前連結会計年度末 2017年12月31日現在	当第2四半期末 2018年6月30日現在	POINT 1	前連結会計年度末 2017年12月31日現在	当第2四半期末 2018年6月30日現在	POINT 2	POINT 3
資産合計 4,814,005	資産合計 4,815,223		負債・純資産合計 4,814,005	負債・純資産合計 4,815,223		
流動資産 3,127,869	流動資産 3,111,426		負債 2,078,804	負債 2,223,585		
固定資産 1,686,136	固定資産 1,703,797		純資産 2,735,200	純資産 2,591,638		

POINT 1 資産の変動

総資産は、前連結会計年度末と比較して1百万円増加し、48億15百万円となりました。主な増加要因は受取手形及び売掛金47百万円、たな卸資産62百万円および有形固定資産29百万円、主な減少要因は現金及び預金1億29百万円です。

POINT 2 負債の変動

負債は、前連結会計年度末と比較して1億44百万円増加し、22億23百万円となりました。主な増加要因は前受金1億46百万円です。

POINT 3 純資産の変動

純資産は、前連結会計年度末と比較して1億43百万円減少し、25億91百万円となりました。主な減少要因は非支配株主持分25百万円および配当による利益剰余金の減少1億27百万円です。

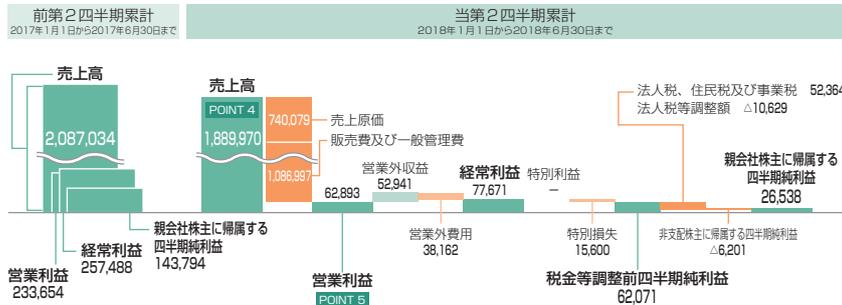
役員の内訳

(2018年6月30日現在)

代表取締役会長	山口 修司
代表取締役社長	塩田 聖一
常務取締役	伴野 裕之
取締役	寺崎 和彦
取締役	春日 勝人
取締役	小島 利幸
常勤監査等委員	佐藤 淳
監査等委員(社外取締役)	山田 英雄
監査等委員(社外取締役)	橋本 光

連結損益計算書の概要

(単位：千円)



POINT 4 売上高の動き

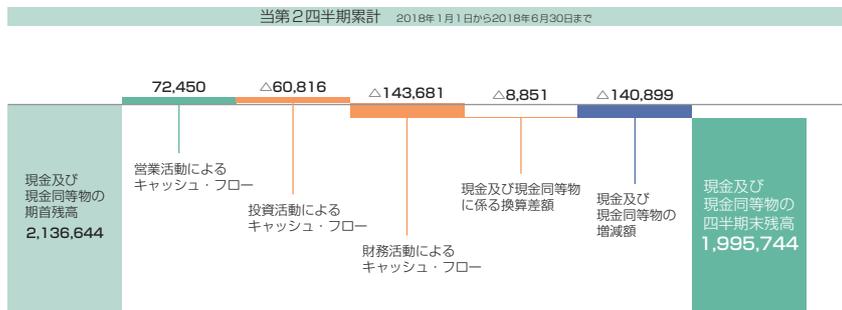
売上高は前年同四半期比で9.4%減となりました。国内では設備投資が工作機械に集中、また製造業向け政府補助金の採択時期が6月末だったこと等も製品販売に影響しました。また北米の金型製造事業においても受注が低調に推移し減収となりました。

POINT 5 営業利益の動き

営業利益は前年同四半期比で73.1%減となりました。売上高の減少に加え、CAD/CAMシステム等事業において先行投資としての開発外注費が増加したことが主な要因です。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：千円)



POINT 6 キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業キャッシュ・フローは72百万円増加し、前年同四半期連結累計期間との比較では2億93百万円の減少となりました。主な増加要因は税金等調整前四半期純利益62百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)
投資キャッシュ・フローは60百万円減少し、前年同四半期連結累計期間との比較では34百万円の減少となりました。主な増加要因は定期預金の払戻による収入31百万円、主な減少要因は定期預金の預入による支出45百万円、および有形固定資産の取得による支出37百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務キャッシュ・フローは1億43百万円減少し、前年同四半期連結累計期間との比較では13百万円の減少となりました。主な減少要因は配当金の支払いによる支出1億43百万円です。

株式情報

(2018年6月30日現在)

株式の状況

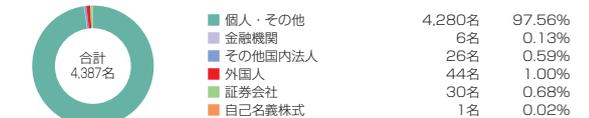
発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	9,801,549株
株主数	4,387名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社山口クリエイト	1,672,190	17.06
日本生命保険相互会社	459,740	4.69
MSIP CLIENT SECURITIES	367,300	3.74
山口修司	293,169	2.99
リズム時計工業株式会社	210,100	2.14
株式会社SBI証券	192,800	1.96
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	185,000	1.88
C&Gシステムズ従業員持株会	139,469	1.42
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	110,700	1.12
株式会社ライブスター証券	106,500	1.08

株式分布状況

株式分布状況(株主数別)



株式分布状況(株式数別)

